

② 大学におけるキャリア教育の射程

1) マッチング主義

- 学生の適性診断、職業研究と業界研究によって、学生と職業とのマッチングをスムーズにする

例) 従来からの就職指導、職業・就職ガイダンス、就職部主催の業界研究など

2) 構え主義

- 学生の職業に対する意欲や興味を育成する

例) インターンシップやキャリアデザイン科目など

3) 能力主義

- 職業に役立つ知識を大学で修得させる（職業知識志向）

例) 手に職をつけさせるための教育

4) コンピタンス志向

- コミュニケーション能力や論理的思考などの基本的な能力を修得させる

（参照：金子元久「キャリア教育」『IDE 現代の高等教育』2010年6月号）

③ キャリア教育推進の現状と課題（方向性）

- 1) 各高等教育機関の個性・特色や学問分野、教育課程の編成方針など、それぞれの状況に応じて、多様な教育内容・方法によって取り組まれている

- 2) キャリア教育の全学的な位置づけ、教育プログラムの整備、運営組織・体制の整備、教職員への意識啓発などについて、課題がある

- 3) 各高等教育機関の教育機能や教育方針を踏まえて、キャリア教育の方針を明確にし、教職員の理解の共有を図った上で実施する

- 4) 学生一人ひとりの状況に留意しながら、教育課程内外を通じて全学で体系的・総合的にキャリア教育を展開する

- 5) グループワーク・ゼミ形式の授業、調査・実習・発表重視の授業、課題対応型学習、インターンシップなどを活用する

- 6) 教育課程内外の活動を効果的に組み合わせて実施する

（出典：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011年1月）

(3) 初年次教育

- 高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的諸経験を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム

（出典：中教審「学士課程教育の構築に向けて」（答申）2008年12月）

① 初年次教育の内容

- 1) スタディスキル（大学で学ぶために必要なスキル＝リーディング、レポートライティング、批判的思考、調査、プレゼンテーション、ノートのとり方、レポートの書き方など）

- 2) 専門教育への導入（専門教育への橋渡しとなる基礎的知識・技能の教育）

- 3) 学び全般への導入教育（教養ゼミ、総合演習、自己の探求と学問のすすめ）

- 4) スチューデントスキル（学生生活における時間管理や学習習慣の確立）

- 5) オリエンテーションやガイダンス（履修の仕方、施設の利用方法）

- 6) 情報リテラシー（コンピュタリテラシー、情報処理、ネット利用の方法とリスク）
- 7) 自校教育（建学の精神、教育目標）
- 8) キャリアデザイン など

（出典：川島啓二『大学と学生』2008年5月号）

② 初年次教育で重視されていること

- 1) 学生生活における時間管理や学習習慣の確立
- 2) 受講態度や礼儀・マナー
- 3) チームワークを通じての協調性
- 4) 社会の構成員としての自覚・責任感（社会的市民性）
- 5) 学生の自信や自己肯定感 など

（参照：杉谷祐美子「大学教育学会第30回大会資料」2008年6月）

（4）リメディアル教育

- ・大学教育を受ける前提となる基礎的な知識についての教育

（出典：中教審「学士課程教育の再構築に向けて」（答申）2008年12月）

＝大学教育を受けるにあたって、不足している学力を補うために行われる補習教育（高等学校までの補習・補完教育）

① リメディアル教育の内容

- 1) 日本語文章の書き方
- 2) 数学（分数計算）
- 3) 英語 など

② リメディアル教育の特徴

- ・正課外の位置づけとして（単位を付与しないで）、教務部門ではなく、学生支援部門によって行われることが多い

キャリアセンター中核人材の立場から

「大学生のキャリア形成支援」、多義性があるこの言葉をどのように捉えるかによって、実際の支援内容は大きく異なってくるでしょう。大学生の「キャリア形成」を支援する部署で働いているスタッフは、この多義性がある「キャリア形成支援」に対して、様々な方策を立てて取組んでいるのが現状です。単に就職活動支援＝就職内定獲得のための具体的な支援だけをやれば良い、というわけではなく、時には学生生活のあり方（学業や課外活動など様々）について言及してみたり、資格取得支援を支援したり、インターンシップ支援や進学支援など「働くこと」や「学生生活」など、多岐にわたるテーマについての支援が求められます。一方で、実際にキャリアセンターに勤務する職員は、必ずしも「専門家」ではなく、むしろジョブ・ローテーションで配属されるケースが多く、多岐にわたるテーマに対応するのが難しいというのも現状です。

こうした状況において、大学で仕事をする「キャリア・コンサルタント」は、専門家としての役割が求められますし、ますますニーズは高まってきております。

キャリア・コンサルタントには、日々変化する社会・経済状況について、常に興味関心を持ちながらも、一方で大学や学生の実態を把握し、学生個々のよりよいキャリア形成のために、適切な支援をしていくことが期待されます。それは単に「働くこと」について支援するだけでなく、学生が充実した学生生活を送れるよう支援をすることでもありますし、そのためには、個々の大学のカリキュラムや学生支援体制についても理解をし、学内の協力体制や他部署の支援体制についても理解する必要があります。

社会経験のない学生は、色々な意味で「純粋」です。そうした学生たちに、社会についての情報を提供し、適切なタイミングで支援をしていくこと、そして、充実した学生生活を送るためのアドバイスを具体的にしていくことが求められています。

成城大学 就業力育成支援室 長尾 繁樹

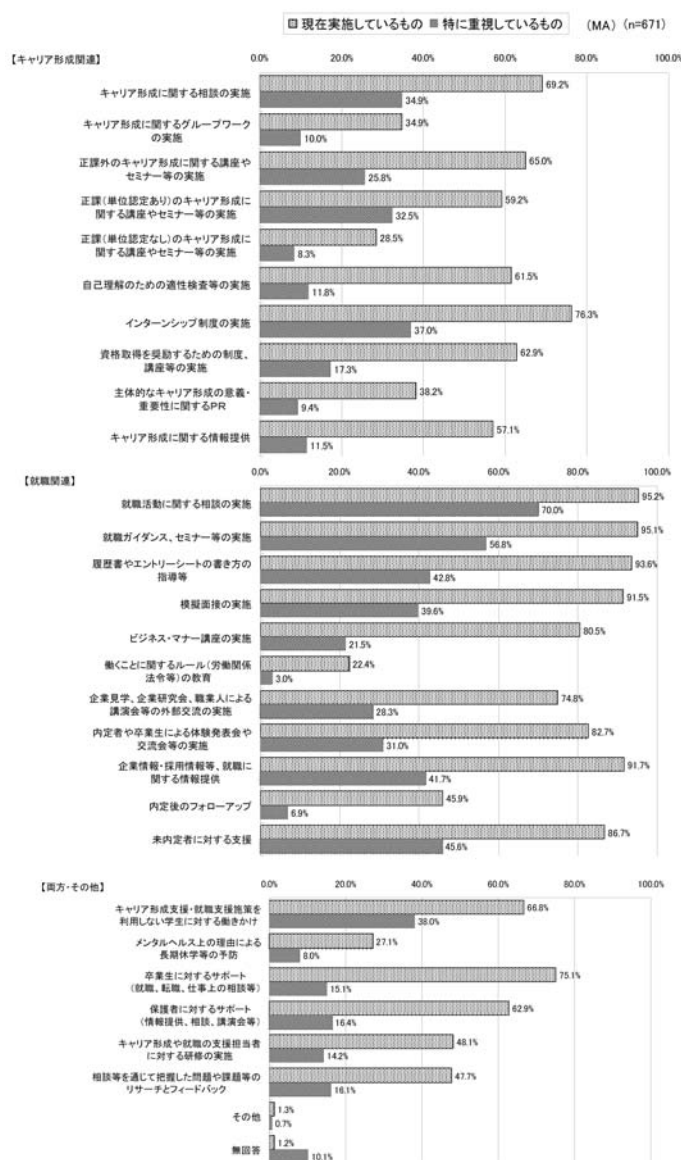
4 キャリア教育の実施とキャリア・センターとの関連

(1) キャリア形成支援・就職支援の取組内容

① 実施しているキャリア形成支援・就職支援

- ・厚生労働省が2010（平成22）年に行った「キャリア・コンサルティングに関する実態調査結果」によると、就職支援に関する主要な取組みは、90%以上の大学等で実施されている
- ・キャリア形成に関する多くの取組みも半数以上の大学等で実施され、約60%の大学等がキャリア形成に関する正課の授業を実施している

【実施している学生のキャリア形成支援・就職支援、特に重視しているキャリア形成支援・就職支援】

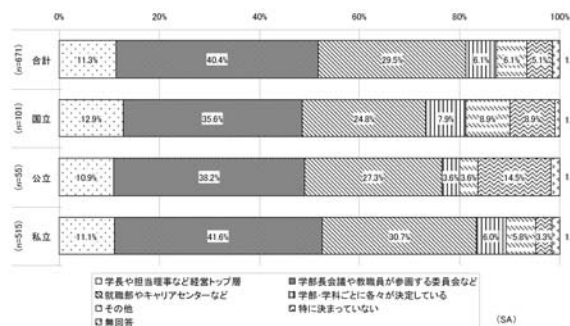


(資料出所：厚生労働省「キャリア・コンサルティング研究会」報告書2011年3月)

② キャリア形成支援に関する取組方針の意志決定を担う部署

- ・約70%の大学が、学部・学科横断的な組織で、キャリア形成支援の取組方針を決定している

【キャリア形成支援に関する取組方針の意志決定を担う部署】

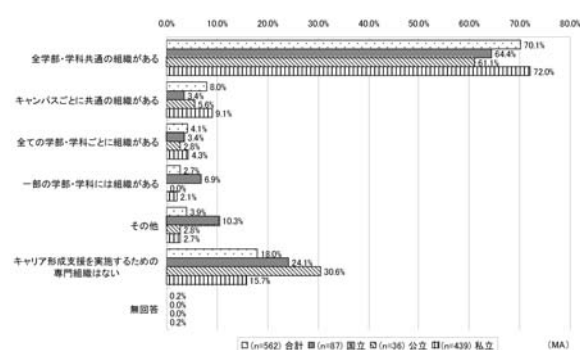


(資料出所：厚生労働省「キャリア・コンサルティング研究会」報告書2011年3月)

③ キャリア形成支援を実施するための専門組織

- ・約70%の大学等で、学部・学科共通のキャリア形成支援を行う専門組織（キャリアセンター等）を設置している

【キャリア形成支援を実施するための専門組織】

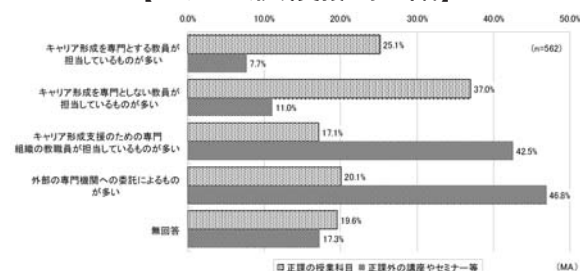


(資料出所：厚生労働省「キャリア・コンサルティング研究会」報告書2011年3月)

④ キャリア形成支援の担当者

- ・学生のキャリア形成に関する正課の授業はキャリア形成を専門としない教員が担当し、正課外の講座等は外部機関への委託やキャリア・センター等、専門機関・組織が担当する大学等が多い

【キャリア形成支援の担当者】



(資料出所：厚生労働省「キャリア・コンサルティング研究会」報告書2011年3月)

(2) 大学におけるキャリア教育の実施

① 大学等におけるキャリア教育・職業教育の課題

- 学校から社会・職業への移行を見据えたキャリア教育・職業教育の改善・充実
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成
- 教育全体を見直すとともに、育成を図る能力を明確化し、適切な体制の整備を進めていく

(出典：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年1月)

② 大学等におけるキャリア教育の基本的な考え方

- 大学等においては、高校までにおけるキャリア教育の目標である生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成と、これらの育成を通じた勤労観・職業観等の価値観の自らの育成・確立を基礎として、大学等の高等教育機関がわが国の多くの若者にとって社会に出る直前の教育段階であることを踏まえ、学校から社会・職業への移行を見据えたキャリア教育の充実を目指す必要がある

(出典：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年1月)

③ 大学等におけるキャリア教育の取組み

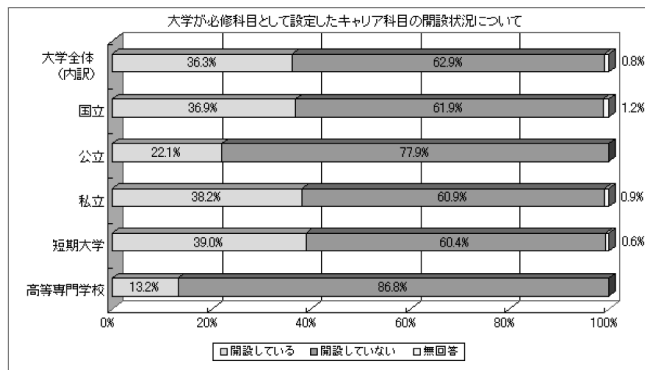
- 入学前段階や入学初年次における、高校からの円滑な接続や学びへの意欲を向上するための教育上の配慮
- 教育課程の中に位置づけられたキャリア教育
- 入学から卒業までを見通したキャリア教育
- 身に付けるべき能力の明確化と到達度の評価
- 一人ひとりのキャリア形成を促進させる支援
- 男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育
- 後期中等教育(高校)と高等教育(大学)との連携

(出典：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年1月)

④ 大学等が必修科目として設定したキャリア科目の開設状況

- 実施学年は、国立大学・私立大学とも1年が多いが、公立大学は3年、1年の順が多い。大学全体では、キャリア科目は、1年次に開設する傾向がある
- キャリア科目の名称としては、「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」「キャリアガイダンス」「キャリア開発」「キャリアクリエイト」「職業とキャリア」「働くことの意味」「人と職業」「仕事と人生」「仕事と自己実現」「女性と仕事」などがある

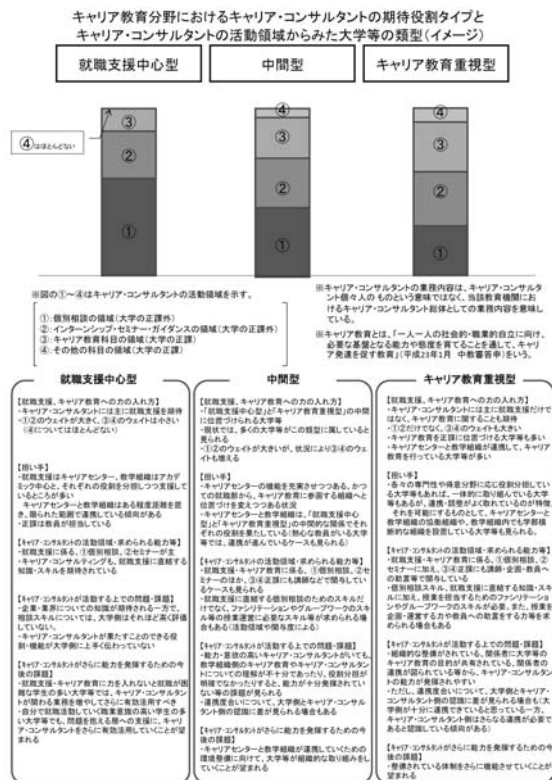
【大学等が必修科目として設定したキャリア科目の開設状況】



(資料出所：学生支援機構「大学、短大、高専における学生支援の取組状況に関する調査（平成22年度）」2011年6月)

⑤ 大学等におけるキャリア教育の取組み類型

- 就職支援、キャリア教育への力の入れ方によって、大学等を次の3つの累計に類型化できる。
すなわち、(i)就職支援中心型、(ii)中間型、(iii)キャリア教育重視型である
- (i)の「就職支援中心型」は、企業説明会や就職セミナーといった就職活動に直結した情報提供や相談対応には力を入れているが、キャリア教育にはそれほど力を入れている大学等である
- (ii)の「中間型」は、「就職支援中心型」と「キャリア教育重視型」の中間の位置付けであるが、現状では、最も多くの大学等がこの類型に属しているものとみられる
- (iii)の「キャリア教育重視型」は、就職活動に直結した支援はもちろんのこと、キャリア教育に力を入れており、入学後早い段階から、キャリア教育に取り組んでいる大学等である



資料：厚生労働省作成

(資料出所：厚生労働省「平成23年度キャリア・コンサルティング研究会－大学等キャリア教育部会」報告書 2012年3月)